

宮城県大河原商業高等学校（全日制）

研修先	東京都立八王子桑志高等学校 埼玉県立鳩ヶ谷高等学校 埼玉県立羽生実業高等学校
研修日程	令和元年 10 月 10 日(木)～11 日(金) 【研修者:本校教職員 2 名】
研修内容	<p>○東京都立八王子桑志高等学校</p> <p>平成 19 年 4 月に八王子工業高校，第二商業高校を発展的に統合，日本初の産業科高校として開校した。商業・情報及び工業教育等を融合してつくられた新たなタイプの専門高校である。地域産業界・大学等との新たな連携を築き，「情報通信技術と活用能力」及び「ものづくりやビジネスの基礎」を総合的に学び，地域社会から信頼される専門高校の設置を願って生まれた学校である。教育理念として「生涯を貫くキャリアをデザインする」，「誰にも負けない得意技を身に付ける」，「進路第一希望を実現する学力と教養を身に付ける」，「世の中の役に立つ人間になる」という四つの柱を掲げ，ノーチャイム，45 分授業の週 34 時間，習熟度別授業，を実施し，35 人クラス，すべての学科で「IT とファイナンスの基礎を学ぶ」など特色ある教育を行っている。</p> <p>学科・クラス編成（全学年共通）</p> <p>デザイン分野 70 人（35 人×2 クラス） クラフト分野 35 人（35 人×1 クラス） システム情報分野 35 人（35 人×1 クラス） ビジネス情報分野 70 人（35 人×2 クラス）</p> <p>この地域は元々養蚕業が盛んであり，呉服店が並んでいる土地柄であった。そのため旧八王子工業高校には，染色科（のちのデザイン科）が設置されていた。現在のデザイン分野もその流れを汲むものである。開校 13 年目を迎える新しい学校であるが，現在も現桑志高校同窓会と八王子工業同窓会が併存する（第二商業の同窓会は 10 年前に閉じている。）伝統と地域文化の色が残る高校である。地域とのつながりは深く，地元企業へのインターンシップや地元中小企業を学校に招いて開催される展示会は生徒を企業の出会いの場となり，地元での人材育成にも一役を買っている。デザイン科は美術系大学への進学，クラフト科，システム情報科もその分野への進学の割合が高く，進学型の産業高校である。ビジネス情報科は就職の割合が高く，地元多摩地区への就職が多い。各学科とも施設が充実しており，放課後も学校のいたるところで作品制作や実習，学習に励む生徒の姿が見られ，活気あるものづくりの学校という印象を受けた。</p> <p>特にデザイン科は，日常的に作品制作の課題があり，放課後も課題に取り組んでいた（視察時は鋳型から取り出した金属の研磨を行っていた）。3 年間を通しデッサンや平面構成，立体構成からプロダクトデザイン，テキスタイルデザイン，コンピュータグラフィックまで，さらに市民講師を招き，写真，映像，</p>

家具まで実に多彩なデザインを学んでいる。デザインの幅を持たせ、選択肢を多くすることで、進学後のより専門的なデザインへの道の対応力を養うことを目的としている。

各学科間の連携が十分でないことが現在の課題であるとのことではあるが、各学科とも学びが明確であり、生徒が目標を持ち、学校での学びを理解して入学してくること、そして地域に必要とされ、地域に根付いた学校であることが窺えた。

○埼玉県立鳩ヶ谷高等学校

昭和 63 年に開校し、新設高校としては埼玉県で一番新しい学校である。普通科（5クラス）・情報処理科（2クラス）の他に、埼玉県で唯一、園芸デザイン科（1クラス）を設置している3学科併設校である。開校当時、鳩ヶ谷市（2011年川口市に編入）には県立高校がなく、普通高校に対する地域の要望があった。さらに元々この地域の安形地区では造園が盛んな土地柄であり園芸デザイン科の設置、また時代はバブルであり、情報処理パソコンのスキルが叫ばれている時代であったことから情報処理科の設置となった。都市部にあることもあり、園芸デザイン科は生産管理のない園芸デザイン、加工デザインが中心となっている。学年で普通科4クラス、園芸デザイン科1クラス、情報処理科2クラスであるが、1年生は3学科の生徒をミックスの8クラスで編成、2年生は普通科を5クラスで編成し、少人数でのきめ細やかな指導を行っている。さらにミックスすることで各学科の教科指導の平準化が図られると同時に学科間で生活指導の差がでないという効果がある。専門学校への進学が多いものの、ほぼ6割が進学している。就職に関しては、園芸デザイン科から多少造園、生花への就職はあるが、他学科を含めると様々である。

埼玉県唯一の園芸デザイン科は、植物を育て、美術的な感性やセンスを養いながら、進学にも就職にも対応できる園芸分野のデザイン力を育てている。フラワー、グリーン、ガーデン3つのデザイン分野を学び、園芸はもちろん美術教員からの指導も入れ、色彩や空間デザインなどの授業を展開している。情報処理科は、LAN構築された129台のパソコンを活用し、進学にも就職にも対応できるICT（情報通信技術）活用能力を育てている。簿記の指導にも力を入れており、仮想の商品開発のプレゼン大会であるクエストカップに毎年参加するなど、幅広い商業の知識の習得を図っている。

平成 29 成年度から新たな学びをスタートしている。普通科・園芸デザイン科・情報処理科の3学科を併置した総合制高校としての特色を生かし、教育課程の全面改定を行った。3学科の枠を超えた総合選択制を導入。これにより、進路希望に応じて普通科目・専門学科を学習しながら、他学科の科目も学ぶことができるため、学習の範囲を広げた。同時にミックスクラスの導入や身だしなみや学校生活の指導の徹底を図った。現在は、学校周辺地域出身の生徒が学び、落ち着いた学校生活を送っている。地域からの要請と要望にしっかりと答える形の学校となっている。全体としてはクラス数から見ても普通科が中心の学校である。令和4年度の新カリキュラムの見直しも含めて、今後、進学指導

	<p>に力を入れ行きたいとのことであった。</p> <p>○埼玉県立羽生実業高等学校</p> <p>創立 100 周年を迎えた伝統校であり、埼玉県内唯一の県立実業高校である。平成 9 年に園芸科、農業経済科、商業科、情報処理科、ビジネス会計科、の 5 学科（1 学年 5 クラス）となっている。元々、農業が盛んな土地柄であり、大正 8 年に農業学校として設立された。時代の要請から大正 12 年に商業科が設置された経緯がある。やはり地域や時代の要請に応えた形でその土地にある実業高校である。これまで 100 年の歴史を重ねて、県内外に 2 万有余の卒業生を輩出しており、卒業生が各方面で活躍している。秩父鉄道の西羽生駅から徒歩 5 分、東武鉄道の羽生駅から徒歩 15 分と交通の便も良い。約 70%が就職であり、地域で活躍する OB が多いため求人が多い。また、全県からの求人も多く就職率は高い。学科間での横断的な取り組みやカリキュラム編成、選択制はないが、広い敷地と充実した施設を持つことで、それぞれの学科が専門的な教育を実現している。地域性や地元農業との関わりから企業との商品開発や農業を通じた地域交流など農業科としての活動が盛んである。地域イベントへの参加に関しても農業科への要請が多い。</p>
<p>学校づくりに 役立てる 具体案</p>	<p>○本校において</p> <p>3 校とも商業科においては新しい取り組みを見いだせていない状況は見受けられた。ビジネスは日々進化している。魅力ある商業教育を実現するために、商品開発やウェブでの商品販売など既存の取り組みにとらわれることなく、効果的で、かつ実践的な取り組みを考える時期に来ていると痛感した。</p> <p>○再編・統合校について</p> <p>3 校とも元々地域に根付いた伝統を持った高校の統合、そして地域からの要請で開校された学校であった。地域の文化や伝統から必然性を持ってその地域に存在していた。高校が、特に専門高校が地域とともにあるということを改めて実感する機会となった。</p> <p>今回の視察から、令和 5 年度開校の統合校に関して、この大河原町を中心とする仙南地域に必要とされる学校としてのビジョンを明確に打ち出す必要があると痛感した。お互いに歴史と伝統を持つ大河原商業と柴田農林校が今後も地域にある高校として必要とされるような専門教育の充実は不可欠である。学科設置の歴史を考えると、新しく新設されるデザイン科は地域に根ざし、地域を作っていく学科とならなければならない。そのために地域に開かれたカリキュラムをマネジメントし、地域の経済資源を効果的に教育活動に組み込むことで、大河原町を中心とする仙南地域の未来を構想するデザイン力をもった生徒を育て、地域社会に送り出していくことが必要不可欠となるだろう。また、一つの学校に農業科、商業科（デザイン科）が併設するとなると学科間での学力や生徒の資質が異なることが予想される。学校としての教育目標を実現するために、鳩ヶ谷高校で効果を上げている学科を越えたミックスクラスの編成は、統合校においても有効な手段であると考えられる。</p>